



# 座右の銘

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆  
 ~あなたの悩み事は当社までご相談下さい~  
 【今月の一冊】 捨てられる銀行  
 橋本卓典 著 講談社現代新書  
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2016年11月1日 Vol. 169  
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション  
 ライフコンサルタント 渡邊敏徳  
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地  
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

## 社長の仕事

中小企業の社長は、最前線に立って一生懸命頑張っています。しかし、常に経営が上手くいくとは限りません。良い時もあれば悪い時もあります。良い時も悪い時にもその理由がありますが、本当の根本原因まで追究しないで、景気のせいやアクシデントのせいなどについてしまいがちです。昔からある落語で、こんな話があります。

おじいさんは、右の膝が痛くなり病院にいきました。お医者さんはおじいさんの話を聞き、検査をしましたが、原因がよくわかりません。そこで、お医者さんはおじいさんにこう言いました。

「おじいさん、歳のせいですね。」と。そしたら、おじいさんは不思議そうな顔をして、こう言いました。「そうですか。左の膝も同じ歳なんですがねえ・・・」って。“歳のせい”なら、右も左も同じように痛くなるはずだとおじいさんは思ったのです。お医者さんのような専門家でも本当の原因が分からないことがあります。

落語の世界では笑ってすみませんが、会社経営ではそうはいきません。景気のせい、アクシデントのせいにしては、会社は潰れてしまいます。経営者は業績結果の本当の理由を根本から知ることが欠かせません。そして、変化の激しいこれからの時代にどう順応していくかとても重要な問題です。

時代とともに、今まで必要だったものが要らなくなり、不要だったものが必需品になることもあります。そして、思いもかけない業界から競争相手も出てきます。これからの20年で、700以上の業種が無くなるとの研究報告もあるようです。

サム・ウォルトンの成功するビジネスを築く10カ条  
 【ルール1】自分のビジネスに専念する。  
 【ルール2】アソシエイト(従業員)との利益を分かち合う。  
 【ルール3】パートナー達への動機づけをする。  
 【ルール4】パートナーに対してはすべて公開する。  
 【ルール5】アソシエイトへの賞賛と感謝をふんだんに。  
 【ルール6】成功の祝福する。  
 【ルール7】社内の声を大切にする。  
 【ルール8】お客の期待を越えよう。  
 【ルール9】経費を抑制しよう。  
 【ルール10】逆流に向かって進め。

自社の今と将来について、じっくり考える時間を持つことは“社長の仕事”です。専門家がわからないことでも、社長がじっくり考え決断しなければなりません。

未来がなかなか見えてこないのは社長自身に“迷い”があるからでは・・・。判断の軸を明確にして、“思い切った手”を打っていくことが大切ですね。

## 幸田露伴

幸田露伴(こうだろはん)と言えば、明治から昭和にかけて活躍した小説家、随筆家です。代表作は「五重塔」ですが、私は『努力論』という人生修養のための随筆が印象的です。

その努力論の中で、福を身につける三つの道を示しています。「惜福(せきふく)」「分福(ぶんぷく)」「植福(しょくふく)」です。惜福は、運が巡ってきて福に恵まれます。その恵まれた福を使い切らずに、その福の一部を見えないところを巡っている運にお返しするような心掛けのことになります。微かに巡ってきた運を感じ取り、有り難く受け止め感謝する心が土台となります。

また、自分に来た福を自分で使い切らず、いくらかは分けていく分福。リーダーと言われる人にとっては必要不可欠の心掛けになります。そして、いつ誰かに巡っていく福の種を蒔き、幼木を植えておく心掛けと工夫が植福です。

世界を見渡してみても、私たちはとても高度な文明の中で豊かさを享受しています。まさしく先人達の植福のおかげだと思うのです。自分たちも、子や孫、そして次の世代が豊かさを享受できるように植福していかなければいけません。広大な土地が地肌をさらけ出している国とは違い、山野は豊かな緑に覆われている風土をいつまでも保ち続ける心掛けと工夫が大切なのだと思います。



### 【座右の銘にしたい名言】



傲慢になると、人は小さなこと、部下のちょっとした心の変化などに気づけなくなる。

(柳井 正/日本の経営者、ユニクロ・ファーストリテイリング社長)